

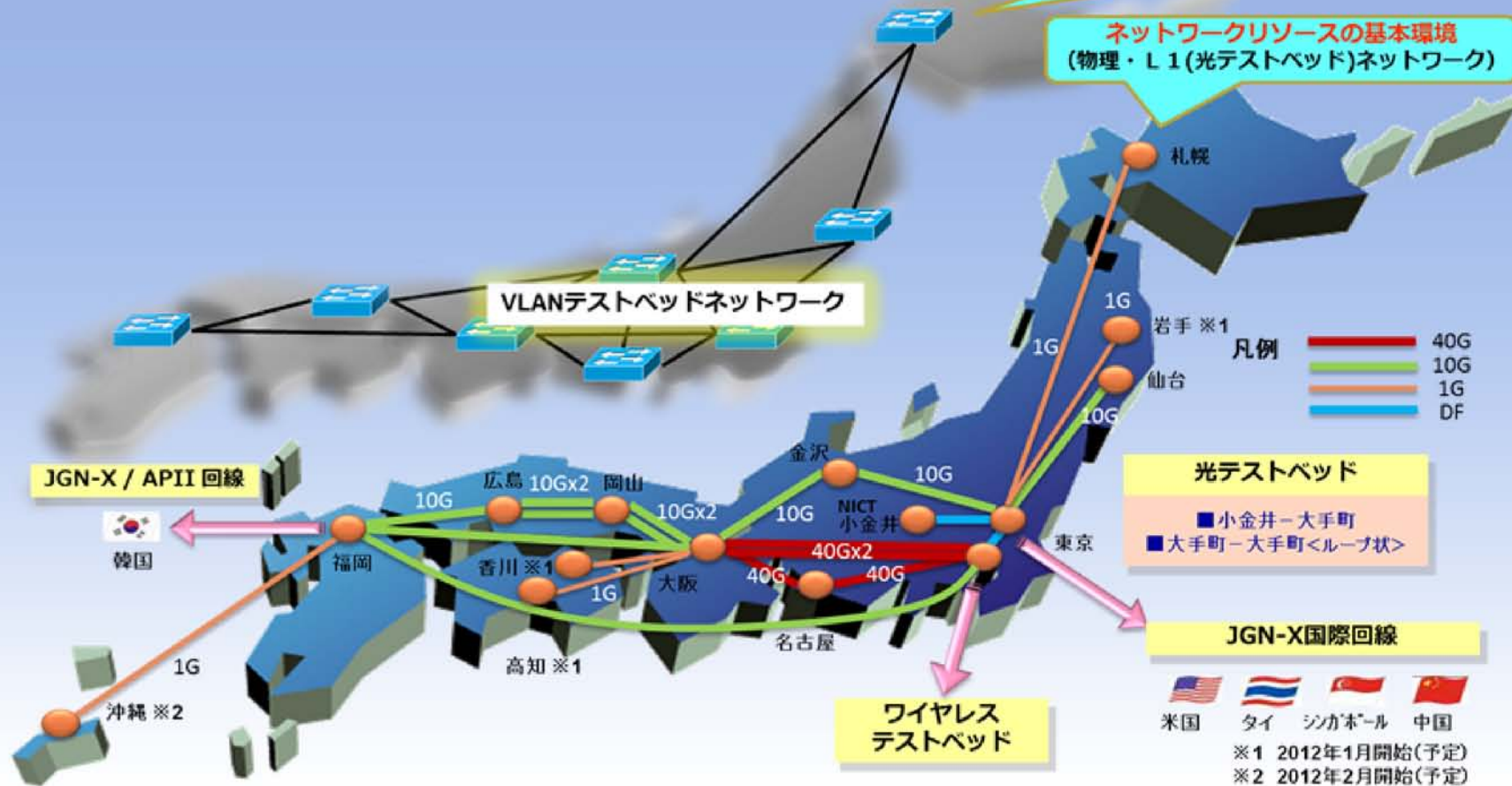
岩手県の復興支援と新世代通信網テストベッド(JGN-X)

大規模な試験ネットワーク環境を提供し、実証・検証結果をフィードバックしていくことで、新世代ネットワーク技術の研究開発を進展させるためにJGN-Xを構築。

- 大規模な試験ネットワークで、実証・評価を通じ、新世代ネットワークシステム基盤技術を確立
 - 技術評価環境(テストベッド)として広く産学官に開放し、新しいアプリケーションのタイムリーな開発を促進
 - 海外の研究機関(米国、アジア等)との接続により、戦略的な国際共同研究・連携を推進
- 実施期間:2011年度(平成23年度)～2015年度(平成27年度)(5カ年計画)

ネットワークリソースの基本環境
(L2(VLAN)・L3(IP)ネットワーク)

ネットワークリソースの基本環境
(物理・L1(光テストベッド)ネットワーク)



実証イメージ①: 遠隔医療及び各種診療情報の共有化

カルテの電子化・共有化と病院のネットワーク化により、

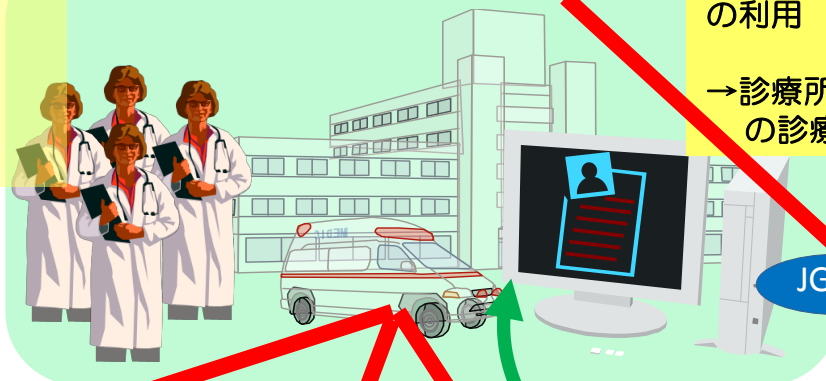
- ・病院が被災しても、診療データの復元が可能
- ・(ボランティア等の)医師が被災者を診療する際に、過去の病状や投薬歴などの参照が可能
- ・遠隔診療及び専門医による遠隔診断が可能

⇒ 被災前後の継続的な医療が可能。医師不足にも対応。

分散していた医療資源を中核病院を中心に再配置することによる医療資源配分の最適化と、「かかりつけ医」的な診療所の計画的な配置



地域の中核病院



費用負担の低い電子カルテ・医療情報システム等の利用

→診療所の記録の閲覧並びに診療所への中核病院の診療情報の提供が可能になる。

香川遠隔医療ネットワーク(K-mix)

JGN-X

Web母子手帳
いはと一ぶ

糖尿病地域連携
クリティカルパス

ドクターコム

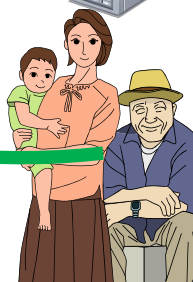
診療所
(かかりつけ医)



自宅
(遠隔医療)



診療所
(かかりつけ医)



患者

遠隔診療及び専門医による遠隔診断の活用

→沿岸部の医師不足への対応が可能となる。

患者は、まず「かかりつけ医」的な診療所で受診。

→診療所の医師の判断により、専門的な治療を中核病院で受療。この際、中核病院と診療所で電子カルテを相互参照することで、継ぎ目のない医療を実現。